



## 青少年の夜間外出禁止は犯罪や犯罪被害の減少に効果がない



青少年の夜間外出禁止は犯罪や犯罪被害の減少に効果がないということがエビデンスによって示唆されている。

### 本レビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューは、青少年の夜間外出禁止による犯罪と犯罪被害への効果を評価している。レビューは12件の研究から得られた研究結果を要約している。

青少年の夜間外出禁止は犯罪や犯罪被害を減少させない、ということがエビデンスによって示唆されている。

### 本レビューは何に関するものか？

夜間外出禁止は、ある年齢（通常は17、8歳）未満の若者に対して夜間の公共の場へ立ち入りを制限することである。たとえば、メリーランド州プリンスジョージ郡の夜間外出禁止条例は、17歳未満の青少年が平日の午後10時～午前5時、土日の午前0時～5時の間に公共の場に立ち入ることを制限している。その制裁措置は、罰金（違反のたびに増える）から社会奉仕、運転免許の制限にまで及ぶ。米国のおよそ4分の3の都市に夜間外出禁止令があり、アイスランドでも導入されている。

青少年の夜間外出禁止は常識的な要請である。若者たちを深夜から早朝の間、家にとどめておけば、彼らが罪を犯したり、犯罪被害に遭ったりすることを防げるだろう。さらに、罰金やその他の制裁措置を受ける可能性がある、若者たちが夜間外出禁止の時間帯に公共の場にいることを思いとどまらせるだろう。

本レビューでは、青少年の夜間外出禁止による若者の犯罪行為や犯罪被害の減少に対する効果に関するエビデンスをまとめている。

### 本レビューの主な研究成果は何か？

#### どのような研究が含まれるのか？

本レビューに含まれる研究は、青少年が一日のある時間帯に家の外にいることを制限する、あるいは罰することを目的とした公式の声明や地方の政策による効果を検証している。こうした声明や政策は、特定の年齢層のすべての若者たちに向けた一般的な予防措置であって、特定の若者に課せられた制裁措置ではなかったに違いない。

本レビューには、若者の犯罪行為や犯罪被害に対する夜間外出禁止の効果に関する12件の質的評価が含まれている。



### 本レビューはどれくらい最新のものか？

本レビューの調査は2014年3月に更新されたもので、本レビューは2016年3月に発行された。

### キャンベル共同計画Campbell Collaborationとは何か？

キャンベル共同計画Campbell Collaborationは任意かつ非営利の国際的研究ネットワークで、系統的レビューを発行している。私たちは社会科学・行動科学におけるプログラムに関するエビデンスの質を要約、評価している。私たちの目的は、人々がよりよい選択とよりよい政策決定を行なうことを手助けすることである。

### 本レビューについて

本要約はハワード・ホワイトHoward White（キャンベル共同計画Campbell Collaboration）によって作成されたもので、Campbell Systematic Review 2016:03 'Juvenile Curfew Effects on Criminal Behavior and Victimization: A Systematic Review' by David B. Wilson, Charlotte Gill, Ajima Olaghere, and Dave McClure(DOI: 10.4073/csr.2016.3)に基づいている。

### 夜間外出禁止は犯罪や犯罪被害を減少させるか？

青少年の夜間外出禁止は犯罪や犯罪被害の減少に対して効果がないということがエビデンスによって示唆されている。夜間外出禁止の時間帯における青少年の犯罪に対する平均的な効果は、ややプラス、つまり犯罪がわずかに増加しており、全時間帯の犯罪に対してはその効果がゼロに近かったのである。同様に、青少年の犯罪被害に対しても、夜間外出禁止の条例を課すことによる効果はないということが明らかになった。

しかし、本レビューにおけるすべての研究が、確固たる結論を導き出すことを困難にするようないくつかの制限を抱えている。とはいえ、好意的な見方でも信頼できるエビデンスが不足しているということは、よく見積もってもあらゆる効果が小さい傾向にあり、夜間外出禁止は青少年の犯罪および秩序違反に対して意味のある解決策にはならない可能性があるということを示唆している。

その他の研究では、青少年の犯罪が登校前や下校後の時間に集中していることから夜間外出禁止には効果がない可能性があることや、警察が資金不足であるために夜間外出禁止を強化するよりも緊急要請のほうに注力していることが示唆されている。

### 本レビューの研究結果が意味することは何か？

一般的に信じられていることに反して、青少年の夜間外出禁止は予測されたような利益を生み出すようなものではないことがエビデンスによって示唆されている。本研究で用いられた研究デザインでは、明確な結論を導き出すことが困難であったことから、より多くの研究によってこれらの結果が再現される必要がある。しかし、従来の研究によって生じるバイアスの多くによって、私達が「夜間外出禁止は効果的である」と結論づける傾向は弱まるよりむしろ強められているだろう。たとえば、こうした研究の多くが全米中で犯罪が減少していた期間に行なわれていた。そのため、私たちの研究結果は、夜間外出禁止は犯罪には効果をもたない、あるいはその効果が小さすぎるために参照可能な調査では明らかにならなかったということを示唆しているのである。